

研究題目

## 英語好きな学級を創る授業マネジメント

### 目 次

- 1 はじめに
- 2 4年間の取組と指導のポイント  
～誰でもできる！英語の授業マネジメント～
  - (1) 学習規律を高める魔法のカード
  - (2) カードで板書をグレードアップ
  - (3) 自信を高める「スピーキングテスト」！
  - (2) 英語好きを増やす「定期考査のひと工夫」
- 3 アンケートから振り返る英語の授業
- 4 おわりに（成果と課題）

富山県富山市立三成中学校 教諭 山田 尚平



## 1 はじめに

初任からの3年間、多様な生徒の実態に合わせて自作教材を300種類以上作成するなど、試行錯誤しながら英語授業の実践に取り組んだ。本報告では、その数百種類の実践の中から、生徒の意欲が高まったものを厳選して紹介する。

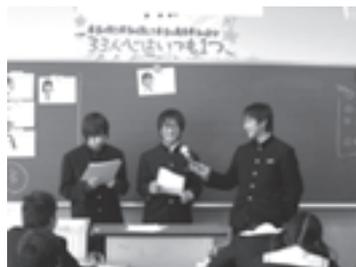


↑3年半で作成した自作教材（一部）

下記の実践を通して、生徒の英語学習に対する「自主性」、「積極性」を育てることを目指した。

- ・英語学習において生徒に求める「自主性」、「積極性」を1枚のカードを通して高める工夫。
- ・生徒が学習をスムーズに進めるために、3つの板書用アイテムを使用。
- ・ALT とのスピーキングテストを通して、英語学習への「自信」を高め、積極的に英語を使おうとするクラスの雰囲気づくり。
- ・定期考査を通して英語好きな生徒を増やす取組。

このような取組を重ねた結果、「英語嫌い」が「英語好き」に、「英語が苦手」が「英語が得意」に変容していく様子を感じられた。そして県の学力調査の成績も向上した。しかし、2020年の東京オリンピック開催時に20代を迎える現在の中学生には、さらなる英語運用能力や、欧米文化に関する知識の習得が求められる。実際に中教審総会では、教育内容中心から「資質・能力」育成の重視へと、学習指導要領の構造の見直しを進める検討がなされている。



↑熱心に授業に取り組む生徒達

## 2 4年間の取組と指導のポイント ～誰でもできる！英語授業マネジメント～

本校では4月の第1回職員会議において、校長から以下の文書が配付された。

「授業で勝負する」

- ・全人格でぶつかる。  
1時間の授業で心構えが変わる生徒がいることを忘れない。
- ・ぎりぎりまで悩み最大限の準備をして臨み、授業では余裕の表情を見せる。
- ・常に教科の本質と基礎・基本を問いつける。
- ・生徒指導の99%は授業にあり。
- ・開始時間と共に授業を始める。終了時間を厳守する。

(三成中学校 学校経営方針 より)

教科教育のプロである以上、常に意識しておかなければならないことばかりである。私も教職に就いてから「授業で勝負する」ことを仕事の中心に据え、自分が納得できるまで教材研究を重ねてきた。本章では授業マネジメントの具体的なポイントを示す。

### (1) 学習規律を高める魔法のカード「GAMBARI CARD —AROUND THE WORLD—」

授業開始のチャイムが鳴っても落ち着いて着席できない学級がある。その原因として考えられるのはシステムの問題である。生徒がチャイム前に着席をしようと思うシステム作りが必要だと考える。私の授業の場合、ここで‘GAMBARI CARD’が活躍する。GAMBARI CARD (がんばりカード) とは、英語の授業におけるポイントカードである。授業中に頑張った分だけポイントを貯めて、世界中の国々を巡っていくといった仕組みだ。私は授業開きから2回目の授業のチャイムが鳴る前にこのように伝える。

Oh, you are so nice!

チャイムが鳴る前に着席できている人、please write 1 GAMBARI point!

‘nice’ に心を込めて、大げさに褒めながら呼びかける。すると着席してなかった生徒も教師の声を聞き自然と座り始める。そうすれば皆を褒めることができ、いい雰囲気ですべての授業を開始することができる。各学期の授業開きの段階でこういった指導を継続しておくことが大切である。このシステムが定着すれば、「座れ！」と教師が注意しなくても、英語係が GAMBARI CARD を配ると同時に生徒が着席するようになった。まさに、「魔法のカード」になったのである。

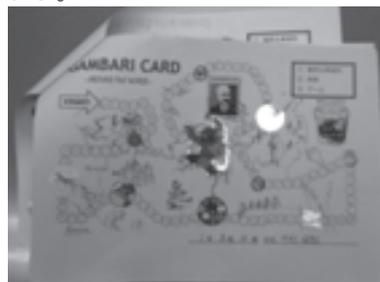
ここで述べた、

① 着席&準備物のポイント

の他にも、

② 発表のポイント

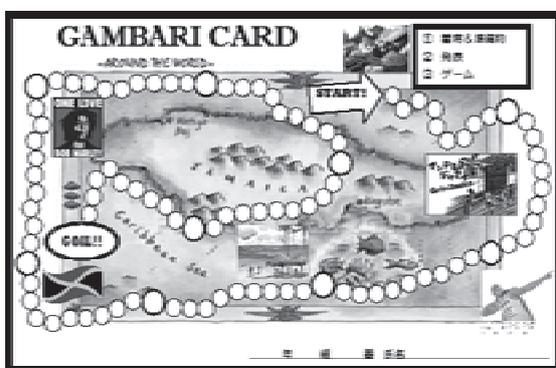
③ ゲームや歌のポイント



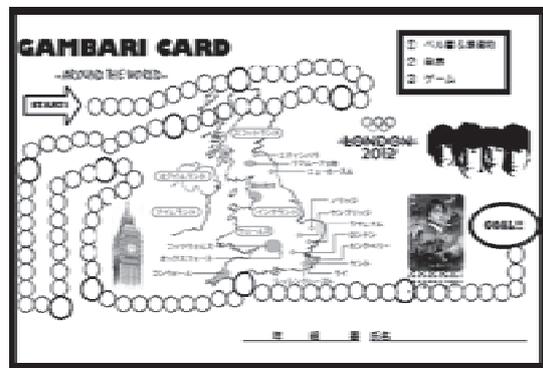
↑世界中を旅行できる?! GAMBARI CARD

という項目を設定している。②は、挙手をして発表したら自分で 1 point をカードに書き込むというものである。他の教科ではあまり挙手をしない生徒も英語の時間には不思議と挙手をするようになる。ここで大切なことは、どんな簡単な内容の発表でも point を書かせることだ。新出英単語の意味調べや、辞書で意味を見つけたとき等、些細な成功体験を積み重ねさせ自信をもたせることも教師の大切な仕事だ。③のポイントは文字通り、英語の時間のゲームで勝った時や、英語の歌を「頑張った」ご褒美として記入させる。ただの紙切れ 1 枚だが、生徒の自主性や積極性が感じられる場面が次第に多くなった。

また、私の場合は授業の終わりのあいさつの後にカード毎回を回収している。10 points ごとにシールを貼ってあげる。さらにカードは回収しておけば生徒がカードを紛失してしまうこともない。



↑ GAMBARI CARD の例 (メキシコ版)



↑ GAMBARI CARD の例 (イギリス版)

## (2) カードで板書をグレードアップ『学習課題』『ゴール』『フローカード』

板書のポイントについて、富山市教職員研修の手引き（富山市教育委員会）の中に、以下のように記されている。

- ・今日の課題が分かる。
- ・子どもが今すべきことが分かる。
- ・本時の課題、過程、結論の道すじが分かる。
- ・子どもが書く文字の手本になる。



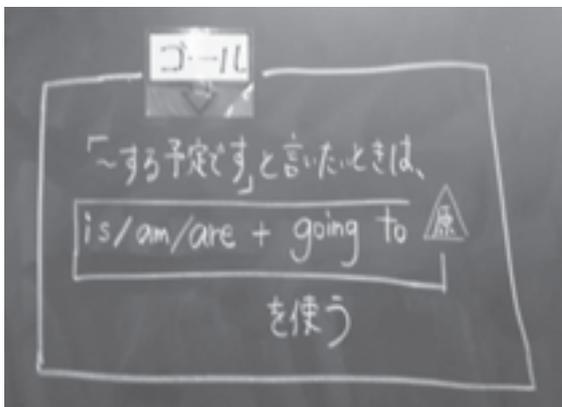
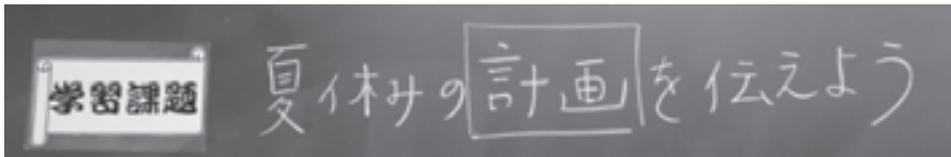
↑ 写真記録した板書

私は学習指導の振り返りを行うために、授業後に板書の写真での保存に努めている。手ごたえがあった授業も、上手くいかなかった授業も両方の記録を取り、振り返りをしている。

板書に安定感（教師にとっても生徒にとっても）を出すために、私が毎回使用している 3 つのカードを紹介する。

## ① 教師の指導力もアップできる「学習課題」と「ゴール」カード

この「学習課題」と「ゴール」のカードを使用することは、本校の全教師で行っている取組である。毎回の授業において、学習課題＝本時のねらいを明確にし、生徒に何をやる時間なのか見通しをもたせている。また、授業の終わりまでに「ゴール」を提示し、生徒の達成状況を明確にすると同時に、達成感をもたせる効果がある。教師自身も、ねらいとゴールを常に意識して授業に臨まなければならないため、授業力の向上につながる。



← ↑ 黒板にペタペタ貼れるカードを活用

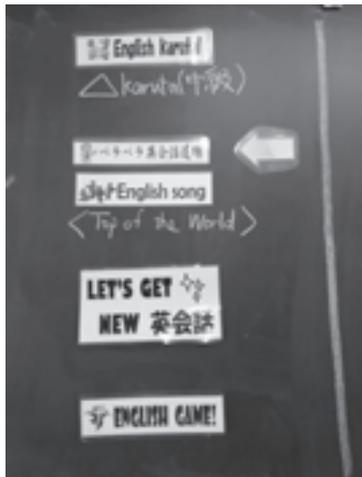
## ② 教師も生徒も見通しをもつ「フローカード」

授業のパターン (例：2 学年)

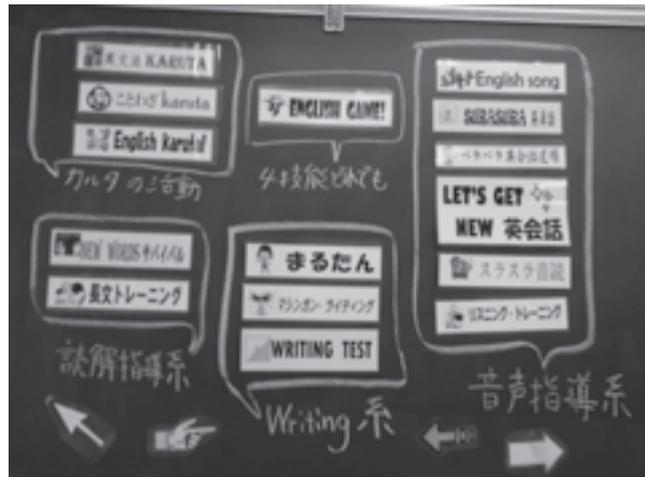
- ① English カルタ (動詞バージョン、中級編)
- ② ペラペラ英会話道場
- ③ English song (Top of the world)
- ④ I will の導入
- ⑤ I will の会話練習
- ⑥ 本時のまとめ

私の場合、上記のように 50 分間の中で、短時間の活動をいくつも組み合わせて授業を構成している。心地よいテンポで授業が進んでいくため、生徒の集中力も持続しやすい。しかし、そのリズムについていけない生徒がどの学級にもいる。

そこで考案したのがこのフローカードである。このカードは授業の流れ(＝フロー)を生徒に提示するカードである。行っている活動に合わせて矢印が動いていく。



↑フローカード=本日のメニュー



↑フローカードのバリエーション

休み時間のうちにフローカードを黒板の左側に貼っていくと、教室の生徒は「今日はこんなことをするのか〜」という顔で教科書等を準備する。授業が始まる前から 50 分間の見通しがもてるし、授業中も「今していること」が矢印で示されているので、授業のリズムについていくことができる。

### (3) 手軽に英語学習への自信を高める！「スピーキング・テスト」

「スピーキング・テスト」とは、生徒と ALT が英会話をして、その内容を ALT が評価をするというものである。評価規準は、

- ・会話の内容（会話の内容が自然であるか、テーマと合っているか）
- ・流暢さ（単語の発音が正確であるか、英語らしいイントネーションがついているか）
- ・意欲（アイコンタクトができているか、相手に聞こえる声で会話できているか）

ということを基本としている。

また、スピーキング・テストを行う際に気を付けていることは、

- ・ 「英会話」に対する自信をもたせるシステム
  - 全員が満点をとることができるような難易度に設定
- ・ ALT と 1 対 1 で話す
  - 教室は待合室とし、テストは廊下で行う
- ・ 待っている間の課題を与える
  - 次の時間までの宿題を配っておく（頑張れば宿題無し！）

である。スピーキング・テストの実践方法はたくさんあるが、私が行っている方法を紹介する。

① どんなプログラムでも実行可能！スピーキング・テストの実践

スピーキング・テストの前時には練習時間を確保している。次のように指導する。

Next English class, you are going to have 'Speaking Test'.

This is a script. Script is '台本' in Japanese.

今回のテーマは「ブライオニ先生に電話をかけて、遊びに誘おう」です。

「英会話は得意じゃないな～」と思う人はこの台本のまねをしてもいいです。

「英会話ができるようになってきたぞ」という人は、台本の中身を変えてOKです。

第9回 <b>SPEAKING TEST!</b> (電話の会話)		
★ ブライオニ先生に電話をかけて、遊びに誘いましょう!		
	ブライオニ先生	みんなが答えること
1	Hello?	Hello, Bryony? This is <u>ブライオニ</u> . Are you free this afternoon? (今日の午後空ですか?)
2	Yes. Why?	I'm going to <u>go shopping</u> . (ショッピングするんですか?) Why don't you come with me? (一緒に来ませんか?)
3	Great! What time and where will we meet?	How about <u>two o'clock</u> at <u>the station</u> ? (2時に駅集合でいいですか?)
4	OK! Bye.	See you!

↑ Speaking Test の script (2 学年)

台本があるので英語が苦手な生徒も安心して取り組める。意欲的な生徒はどこの部分でオリジナリティを出そうか考える。台本を配った後は簡単に読み合わせをした後、生徒同士、ペアで練習させる。

出席番号が早い人 is ブライオニ先生の役、遅い人 is 生徒の役。

終わったら、座って「1人読み」しましょう。

Everyone, stand up! 5, 4, 3, 2, 1. Ready, start!

教師は、スタートと同時に BGM を流す。読み方が分からないところはペアでアドバイスし合う。

それでも分からないところは、机間指導している教師に聞くルールになっている。全員座ったら1人読みをストップさせ、次の指示を出す。

〇〇さんと〇〇くんのペア、楽しそうな電話の会話でしたね。  
〇〇の部分の読み方がすごく上手でした。

Now, change your part. 出席番号が遅い人 is 生徒役。  
早い人 is ブライオニ先生の役。  
Please stand up! 3,2,1. Ready, start!

よく頑張っているペアをほめる。練習で自信をもたせ、本番では達成感をもたせる。英語好きを増やす秘訣である。

また、スピーキング・テストのバリエーションは無限大だ。

(1 学年)

- ・ I am / You are や Nice to meet you. などの簡単な挨拶をする英会話
- ・ What time で時間を尋ねる英会話
- ・ Which / Whose で持ち主を尋ねる英会話
- ・ Can I / Can you で許可を求める英会話
- ・ 好きな色の T シャツの買い物する英会話

(2 学年)

- ・ 対話をつなげるテクニックを使った英会話  
(相づちを打つ、質問を返すなど)
- ・ 電話で友達を遊びに誘う英会話
- ・ 道案内の英会話

(3 学年)

- ・ レストランでの英会話
- ・ 電車の乗り換えをする場面の英会話
- ・ 電話での伝言を受ける英会話

上記以外でも教師の工夫次第で充実したスピーキング・テストが可能である。電話のテストでは受話器を、レストランのテストではメニュー表を、買い物のテストでは商品を用意するなど、実際の使用場面を感じさせる工夫も有効である。

## ② スピーキング・テストで ALT にお願いすること

スピーキング・テストにおいて、私の場合は「英語を話すことに自信をもたせる」というねらいがある。そのことを ALT にしっかり伝え、「スピーキング・テストを通して、英語を好きにさせよう」と、共通理解をする。

- ① スコアはやや甘めにつけて OK
- ② 間違えていたら、簡潔に訂正してあげる
- ③ 上手な生徒を覚えておく

といった具体的なお願いをあらかじめしておく。全員のテストが終わった後、教室でALTが全体にアドバイスをする。また、上手に話していた生徒数名のことを言ってもらおう。生徒は真剣にALTの声に耳を傾けている。

**スピーキングテスト⑨ スコアシート**

※このスコアシートにも名前を記入して、フライアオ先生に渡しましょう。  
※英語は、日本語とローマ字（ヘボン式）で書きましょう。

学年 氏名 性別	Part	
ローマ字名		
1	2 + 1 + 0	
2	2 + 1 + 0	
3	2 + 1 + 0	
Thema (話題らしく書ける)	2 + 1 + 0	
Article (話題の範囲 声の大きさ)	5 + 4 + 3 + 2 + 1	
Total		

↑ALTに書いてもらうスコアシート

③ 変則スピーキング・テスト「休み時間に話しかけよう」(全学年で実施)

以下のような変則的なスピーキング・テストも年に2, 3回行うようにしている。

You are going to have SPECIAL speaking test!

今回は授業中でなく、休み時間や放課後にALTの先生に話しかけてもらいます。  
休み時間などにALTの先生に英語で質問をしてみましょう!

スピーキング・テストの用紙は、○月○日までに提出です。  
ALTの先生は○日、○日、○日に学校に来られるので、チャンスは3日間です。

いつものスピーキング・テストよりも本物の英会話に近いですね!

と言って、下のようなワークシートを配布する。

**第7回 SPEAKING TEST !**

Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

★今年度も三校に来ることになったフライアオ先生に休み時間などに質問しましょう！2つの  
フライアオ先生への質問！(できれば2つ)

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

フライアオ先生について知ったこと

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

※フライアオ先生が中学校に来る日は4月14日(月)、16日(水)、23日(水)です。  
※このプリントの提出期限は**4月23日(水)**です。

↑ 変則スピーキング・テストで、実際に使用したワークシート

生徒の中には、「えー！休み時間にそんなことしなきゃいけないのー！」と不満気な者もいるが、実際に話しかけるときは、ニコニコして照れながらALTと楽しそうに英会話をしている。会話後にワークシートを記入している生徒の表情は満足感に溢れている。

#### ④ スピーキング・テストの感想

スピーキング・テストを終えた後には生徒に感想を書いている。多くの生徒が前向きな言葉を並べる。英語のペーパーテストで20点ほどしか取れない生徒も、スピーキング・テストを楽しみ、前向きな振り返りを書く。

- ・「スピーキング・テストは初めて受けましたが、楽しく終わることができ、とても良かったです。次回はもっとスラスラ発音できるよう、授業をしっかり受けたいです。」
- ・「超すらすら会話ができて、今までで1番良い出来でした。」
- ・「今回は今までで1番良かったです！昨日さんざん友達に英語の発音を叩き込まれ、練習の成果が出ました！」
- ・「楽しかった！次はもっと大きな声で言いたいです。」
- ・「今回は今までしていなかったジェスチャーを取り入れてみました。なかなかうまくいったので良かったです。」
- ・「very very very very very nervous 英語でしゃべれると楽しかった。もっともっとしゃべりたくなった。」
- ・「ネイティブの人と話せるのはすごく良い経験だと思うので、これからもがんばりたい。」
- ・「ブライオニ先生の目を見て会話ができた。中1の英語だけでこんなに会話できるのはすごいと思った。」



↑実際のスピーキング・テストの風景



↑教室で一息懸命練習する生徒

(4) 英語好きを増やす「定期考査のひと工夫」

① 英語ってどうやって勉強するの？と言わせない方法（全学年で実施）

「先生！英語って何を勉強すればいいのかわからないよ～」と定期考査前には英語が苦手な生徒の叫び声が聞こえてくる。確かに、英語のテスト勉強は何から手を付けたらよいか分かりづらい。しかし、教師の「ひと工夫」で家庭学習への取組を改善させることができる。私は定期考査の2週間前にこのようなプリントを配布している。

できるようにしてほしい学習内容		勉強道具	できた60
1	ゴールデンウィークの日記が5行以上書ける。	パワーアップノート	
2	友達・家族・有名人紹介が5行以上書ける。	にがりがん	
3	スペシャル・カコケイが正しく発音でき、書ける。	カコケイの練習シート	
4	am, is の過去形 was 「～でした」が正しく使え、書ける。	プリント③ ワークシート①	
5	are の過去形 were 「～でした」が正しく使え、書ける。		
6	was/were を使った疑問文が正しく使え、書ける。		
7	⑥の質問に正しく答えることができる。		
8	過去進行形 was/were + 動詞 ing 「～していました」が正しく使え、書ける。	プリント④ ワークシート②	
9	過去進行形の疑問文が正しく使え、書ける。		
10	⑧の質問に正しく答えることができる。		
11	be 動詞 + going to ～ 「～する予定です」が正しく使え、書ける。		

どのテーマの英作文が書けるようになればいいのか、どんな文法項目を復習すればよいか、どの英語の歌をスラスラ歌えればよいかが一目瞭然になっている。また、それぞれの復習に必要な勉強道具（ワークのP〇、文法プリントのNO.〇等）を示し、類似問題を出題することで、生徒は頑張った分だけ点数を取りやすい仕組みである。

このスペシャルプリントの内容をマスターすれば、80点分は点数が取れます。

と、いつも生徒たちに話す。残りの約20点分は初見の長文問題等である。私は「何をすればいいかわからない」生徒たちには、「すべきこと」を示してあげるのも教師の仕事ではないかと考えている。

## ② 授業の全ての思い出を定期考査へ

今回の中間考査には、英語の歌 ‘Let It Go’ と ‘Top of the World’ を出題します。

という言葉や、

いまやっている「英語名言カルタ」は学期末考査の問題になります。

といった声かけを大切にしている。

授業で行っている活動と定期考査が常に「つながっている」ことを意識させるためだ。楽しみながら活動している英語の歌や、ゲーム性のあるカルタ等の活動も頑張った分だけ、テストでも点が取れるようにしている。逆にいえば、テストで出題することによって授業で頑張る生徒が増える。どんな些細な活動でもテストへつなげるようにしている。

英語の歌は、ほぼ毎時間歌っている。1か月ほど練習して、スラスラ歌えるようになってきたら、新しい歌の歌詞カードが手渡されるというシステムである。1年生で The Beatles の ‘Eight Days A Week’ を歌った後、以下のような問題を出題した。

### 1. リスニング問題

問題A 英語の歌を聞いて、次の問題に答えなさい。

(1) ①～④に適する語を、右から選んで、ア～オの記号で書きなさい。【理解1点×4】

Ooh I need your ( ① ) babe,  
Guess you know it's true.  
Hope you need my love babe,  
Just ( ② ) I need you.  
  
Hold me, love me, hold me, love me.  
I ain't got nothin' ( ③ ) love babe,  
Eight days a ( ④ ).

ア、 but  
イ、 love  
ウ、 week  
エ、 eat  
オ、 like

(2) この英語の歌の曲名を、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。【理解1点】

- ア、 Six days a week                      イ、 Seven days a week  
ウ、 Eight days a week                    エ、 One days a week

リスニングテストで歌の一部を流して、設問に答える。私の場合は難易度を低めに設定して、ほぼ全員が正解できるようにしている。また、筆記問題でも英語の歌を出題することがある。

授業内で歌の背景の読み取りをした場合は次のような問題も出題できる。  
(1 学年)

5. 英語の歌からの出題です。次の英語の歌詞を見て、問題に答えなさい。 【言語・文化 1点×2】

Almost heaven, West Virginia Blue Ridge Mountains, Shenandoah River  
Life is old there, older than the trees  
Younger than the mountains, growin' like a breeze

Country Roads, ( ) me home To the place I belong  
West Virginia, mountain mama ( ) me home, Country Roads

(1) この曲の中ではどんなことが歌われていますか。最も適するものをア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア、戦争の悲慘さについて                      イ、世界遺産について  
ウ、故郷を思う気持ち                         エ、道沿いにあるラーメン屋の話

(2) 歌詞カードの( )に当てはまる英単語を書きなさい。

1 年生で一般動詞を導入しカルタで活動を重ねた後には、このようなリスニング問題を作った。

問題 C 動詞カルタからの出題です。聞き取った英語が表す動詞の絵を、1つずつ選び、記号で答えなさい。 【理解 2点×3】

ア 	イ 	ウ 
エ 	オ 	カ 

(1)    (2)    (3)

また百人一首のように上の句を聞いて下の句を取る「ことわざカルタ」で対戦した後には、上の句と下の句をつなげる問題を出題した。(2 学年)

2. 「ことわざカルタ (中級編)」からの出題です。次のことわざの前半と対応する後半部分を右から選び、記号で答えなさい。 【言語・文化 1点×4】

(1) Like father,	ア、 the best sauce.
(2) Hunger is	イ、 without a thorn.
(3) Strike while	ウ、 time like the present.
(4) There is no rose	エ、 like son.
	オ、 the iron is hot.

ALT が「自分の国の紹介」をしたときや、「動物の鳴き声」を扱ったときにはこんな問題も取り入れた。(1 学年)

3. 新しい ALT の **ブライオニー先生** の出身の国について最も適切なものを選び、**記号**で答えなさい。 【言語・文化 1 点】

ア、  イ、  ウ、 

3. 「動物の鳴き声」からの出題です。下の動物に適する鳴き声を右から選び英語で書きなさい。 【言語・文化 1 点×3】

(1)  (2)  (3) 

toot
meow
ow ow ow
woof

そして、テストの最後には毎回こんな問題を入れる。(全学年)

19. (時間が余った人)

**「今回のテストのために勉強したけど、テストには出なかった！」**

というものを書けるだけ書いてみましょう。 【関心・意欲・態度】

「先生、〇〇を一生懸命勉強したけど、出なかったよ！」という意見が続々と寄せられる。生徒の意見から、自分の授業での指導や、テストの作成について見直すことができる。どの教科でも使えるおススメの設問である。ここでの解答は100点満点の点数には入らないが、成績をつける際、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」という評価項目に点数を加味する。

### ③ 受け身にならないテスト解説 ～ピタリ！自己採点～ (全学年で実施)

私は以前、テスト返しの授業では試験問題を1から10まで解説をすることに、50分間を費やしていた。教師は50分をかけて熱く話し続けているが、生徒はその話を聞いてノートを書く手を動かしているだけである。受け身な生徒たちの姿を見て、私はこの50分間に大きな違和感を抱いていた。

その当時に勤めていた中学校の先輩の先生(国語科)に、このことを相談したとき、ある方法を紹介してもらった。「ピタリ・自己採点」という方法である。私はこの先生の手法を追実践した。私は次のような手順で行っている。

- テストが終わったら、丸付け前の答案をコピーする。【休み時間】  
(コピー機の連続印刷機能や、2 in 1 機能を使うとスムーズである。)
- ↓
- 生徒に模範解答と、生徒自身の答案のコピーを配布する。【授業】
- ↓
- 生徒は自身の答案のコピーに丸付けをしていく。【授業】
- ↓
- 点数を計算し、100 点満点中の予想点数を書く。【授業】
- ↓
- 教師が本物の答案 (丸付け済) を配布し、生徒は予想点数と現実の点数の差を確かめて、GAMBARI CARD に point を入れる。【授業】

〈point の与え方の例〉

ピタリ！	→	10pt
± 1	→	7 pt
± 3	→	5 pt
± 5	→	3 pt
±10	→	2 pt
残念！	→	1 pt

この活動を行っている生徒から、  
「先生この問題って何で△なの〜?」「うわ〜、ピリオドを付け忘れてる！」  
「俺、前置詞の使い方が間違っていたからマイナス1点にしておこう…。」  
「先生！リスニング何で違っているの?! 納得いかないから、もう1回聞かせて！」

といった、前向きな、「受け身ではない声」が毎回聞こえてくる。人から指摘された間違いはなかなか直らないが、自分で気付いたミスは心に残りやすい。長文の記述問題等も生徒は自分で答えを確認していくので、「正答になるには具体的に書かないといけないのだな」と、理解していく。「ピタリ！自己採点」はゲーム感覚で生徒の自主性を育むことのできる活動になっている。

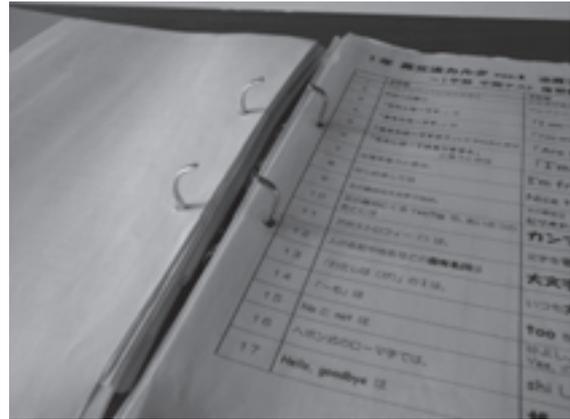
### 3 英語アンケートから振り返る英語授業

現在の勤務校である三成中学校では 2013 年度に 2 つの学年を担当した。学力調査においては県平均に満たない生徒達で、英語嫌いの生徒も多かった。そういう現状の中で、学校経営方針である「授業で勝負」「全人格でぶつかる」をテーマに 1 年間生徒と向き合った。以下はその生徒達の感想である。

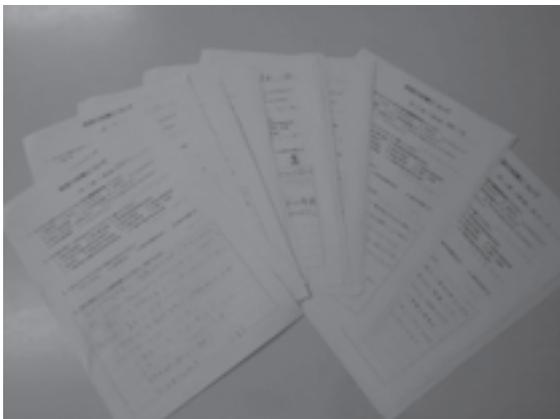
英語への苦手意識があった生徒の感想より

- ・中学校に入学する前は、黒板に書かれたことをノートに写して覚えるものだと思っていたけれど、ノートに写す以外にも、カルタ、歌等で楽しみながら覚えることができ、良かったです。特に良かったのは Speaking Test！会話力を上達することができて本当に良かった。2 年生でも楽しみながら英語を覚えたい！I enjoyed！
- ・英語の時間が 1 番明るくて楽しい時間で、英語が好きになりました！ビートルズ等の歌もとっても楽しかったです。色んなプリントに描いてあったイラストもおもしろくて、次に何のイラストがあるかワクワクしていました！2 年生では英作文をしっかりと書けるように頑張りたいです。‘GAMBARI CARD’の「ごほうびシール」がおもしろかったです。英語が大好きになりました。
- ・今までは英語なんて難しくて絶対覚えられないと思っていましたが、こうやって楽しく勉強できたのは初めてでした。この 1 年間で英語の楽しさが分かり、外国の方と会話したいという気持ちがますます高まった感じがしました。ありがとうございました。
- ・英語の授業では他の授業でやらないことが多く、特別な時間だと感じました。教科書通りのことだけでなく、山田先生はどうしたら生徒が楽しく学び、覚えられるかを考えて下さいました。私は他の授業では発表はしないけど、‘GAMBARI CARD – AROUND THE WORLD’のおかげで、発言をたくさんすることができました。2 年生になって英語の先生になったら、またよろしくお願いします。
- ・定期テスト前にもらう「スペシャルプリント」や基本英文をまとめたプリントは、とても役に立ちました。私は英語をどこから勉強すればよいか分からなかったけど、「スラスラ音読」や「マシンガンライティング」といった勉強法を教えてもらい、その 2 つをテスト前に徹底的にやると、テストを受けるたびに点数が上がって嬉しかったです。英語が得意なほうではなかったけど、今年 1 年間の授業を受けて英語が好きになりました！
- ・I thought English was very difficult at first. But now I think it is interesting and useful. I will be good at English because I study it every day. When I go on a trip in America, I can visit anywhere easily. But I have to study math more than English.... I want to be ‘天才’!

この感想には、私が授業で大切にしているエッセンスがギュッと詰まっている。生徒の前に立ち授業をするときは、「一生懸命に活動してくれている」ことに対して感謝の気持ちを大切にしている。生徒から「英語が好きです!」「英語が得意です!」「ありがとうございます!」と感謝の言葉をもらえるのは英語教師としてこの上ない喜びである。互いに感謝の気持ちを大切にしたい。



↑生徒の頑張りが積み重ねられていく英語ファイル（3年間持ち上がりで使用）



↑実際の英語授業アンケート



↑英語授業の道具 BOX

## 4 おわりに（成果と課題）

本実践の成果として、県下一斉の学力調査での英語の成績向上がみられた。

本校の第1学年は4月の学力調査において富山市の平均から-9.9ポイントと大きく下回っており、学力が高いとはいえない学年であった。1年後の学力調査（英語）では県平均+0.2ポイントまで持ち直すことができた。

同校の2学年は私が出会ったときには、県平均-7.7ポイント（英語）であったが1年後には-0.4ポイントと、7.3ポイントの向上があった。

また、成績に関してだけでなく、生徒の学習意欲の向上においても実践の効果があつたと考えられる。第2章で紹介した生徒の感想にもあるように、「次の学年でも英語が楽しみだ」「Speaking Test で会話を上達できて良かった」、「外国の方と会話したいという気持ちが高まった」、「発言をたくさんすることができた」というような前向きな意見が多くあつた。

しかし、実践を重ねる中で今後の課題も浮き彫りになってきた。現在は3年間安定した授業が行えるような授業マネジメントを考案したが、生徒に付けさせたい力をもっと意識していくべきだと感じている。「3年間でこんな力を付けたい」という明確な目標を設定し、そのために各学年で段階的に指導していく内容を精選すべきだと感じた。日常のマネジメントに加え、3年間のカリキュラムにおける「目標の明確化」についてさらに研修を重ねていきたい。



↑ 授業提案発表では富山市内の先生方から助言を頂いた

自身の授業力を高めるために、積極的に研修会に参加するなど、多くの経験をしていきたいと考えている。昨年度は富山市中学校教育研究会の授業発表を行ったり、小学校への出前授業を行ったりし、参観者からたくさんの助言を得た。また、富山大学で行われている富山県英語授業勉強会（2か月に1回程度参加）において、多くの指導法を学び、良い刺激を受けてきた。今後も、周囲の方々から学ぶ姿勢を忘れず、自らを高める努力をしていきたい。本校の学校経営方針である「授業で勝負」を心に置き、常に生徒と自分自身が幸せになれるような道を歩んでいきたい。